

項目	内容																																				
3. エラーマネジメント	<p>(1)エラーマネジメントの前提 「責任追及」ではなく「原因究明」</p> <p>(2)エラーマネジメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ■エラーレジスタンス エラーやバイオレーションが発生しないよう不安全要素に対処す ■エラートレランス 発生したエラーやバイオレーションに気づき、対処する <p>(3)エラーマネジメントの方法</p> <p>【種類】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">エラーレジスタンス</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">⇒</td> <td style="width: 45%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">エラートレランス</td> <td style="text-align: center;">⇒</td> <td style="text-align: center;">警報システム</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">⇒</td> <td style="text-align: center;">セルフモニター</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">⇒</td> <td style="text-align: center;">チームモニター</td> </tr> </table> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・エラーやルール違反が発生しない仕組み ・発生したエラーやルール違反を検知する仕組み ■確認・確かめ <p>(4)エラーマネジメントのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕組み ⇒ 「仕組み」と「行動」の一体化 ・確認・確かめ ⇒ 誠実な「行動」 <p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ポイントは「行動」</p> <p>(5)行動</p> <p>「意識」が変われば「行動」が変わる。「行動」が変われば「成果」が変わる。 「意識」を変えるポイントは「知識」と「プライド」 * プロとしての行動に裏付けられたプライド</p> <ul style="list-style-type: none"> ■プロとしての行動 <ul style="list-style-type: none"> 小さいこと、当たり前のことを“ちゃんとやる” ・決められたとおりにちゃんと作業をする ・ちゃんと確認する、確かめる <p>一人ひとりの「意識」や「行動」に影響を及ぼすもう一つの要因・・管理監督職のコミュニケーション力</p>	エラーレジスタンス	⇒		エラートレランス	⇒	警報システム		⇒	セルフモニター		⇒	チームモニター																								
エラーレジスタンス	⇒																																				
エラートレランス	⇒	警報システム																																			
	⇒	セルフモニター																																			
	⇒	チームモニター																																			
4. コミュニケーション	<p>(1)「確認・確かめ」とコミュニケーション</p> <p>①確認しない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 権威勾配 : 確認したいのに、確認できない ■ ハロー効果 : 確認できるのに、確認しない (halo : 後光) ■ 意識の問題 : 確認しようと思わない <p>②効果の決定権</p> <p>コミュニケーションの効果の決定権は情報の受け手にある ⇒ 確認会話の重要性</p> <p>③情報の受け止め方</p> <p>言語より準言語、非言語の影響を受ける</p> <p>(2)管理監督職のコミュニケーション力</p> <p>①「ルール」や「仕組み」を導入するとき 課題は、「やらされ感」の払拭</p> <p>②「ルール」や「仕組み」を継続させるとき 課題は、「手応え」</p> <p>【コミュニケーション：あいさつ】</p> <p>「あいさつ」する or しない ⇒ 「違い(不安全要素)」に気づくか、気づかないか ⇒ 一声をかけることができるか、できないか</p>																																				
5. 「行動」の展開	<p>(1)「行動」の展開</p> <p>小さいこと、当たり前のことを“ちゃんとやる” ⇒ 個人からチーム・組織へ</p> <p>(2)意識の共有</p> <p>ポイントの一つは、チーム・組織での「意識の共有」 “何のために、事故を防止するのか？”</p>																																				
全体のまとめ	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2">・人はエラーをする</td> <td colspan="2">・人はルール違反をする</td> </tr> <tr> <td colspan="4">↓</td> </tr> <tr> <td colspan="4">エラーやルール違反はチェーンを構成する</td> </tr> <tr> <td colspan="4">↓</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">仕組み</td> <td colspan="2">ポイントは「行動」</td> <td style="border: 1px solid black;">確認・確かめ</td> </tr> <tr> <td colspan="4">↓</td> </tr> <tr> <td colspan="4">エラーチェーンを切る</td> </tr> <tr> <td colspan="4">↓</td> </tr> <tr> <td colspan="4">事故は防ぐことができる</td> </tr> </table>	・人はエラーをする		・人はルール違反をする		↓				エラーやルール違反はチェーンを構成する				↓				仕組み	ポイントは「行動」		確認・確かめ	↓				エラーチェーンを切る				↓				事故は防ぐことができる			
・人はエラーをする		・人はルール違反をする																																			
↓																																					
エラーやルール違反はチェーンを構成する																																					
↓																																					
仕組み	ポイントは「行動」		確認・確かめ																																		
↓																																					
エラーチェーンを切る																																					
↓																																					
事故は防ぐことができる																																					